

# ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・5月号・付録  
2024年5月6日発行(毎月1回6日発行)  
昭和43年3月8日第三種郵便物許可

〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F  
NPO法人放送批評懇談会

TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510  
ホームページ <https://www.houkon.jp/>  
Eメール [kondankai@houkon.jp](mailto:kondankai@houkon.jp)  
編集・川喜田尚

## 第20回通常総会開催 事業報告、決算、 事業計画、予算承認

### ◆NPO法人放送批評懇談会

#### 第20回通常総会報告

3月20日(水)午後3時からNPO法人放送批評懇談会の第20回(2024年度)通常総会を、オンライン方式(Zoomミーティング)にて開催した。出席者は37名、委任状出席者は84名で、合わせて121名となり、当会正会員195名の2分の1を上回り、総会は成立した。

審議の概要は以下の通りである。

#### 第1号議案(議長の選任)

出席正会員の、堀木卓也氏が推薦され選任された。

第2号議案(2023年度事業報告)

総務、出版編集、選奨表彰、企画開催、広報の5つの責任者、委員長から報告があり、拍手で承認された。

第3号議案(2023年度決算

#### 報告)

中島好登事務局長より2023年度の決算が報告された。

2023年度は収入の部では、選奨表彰事業収入が約320万円、「GALAC」の売り上げで約80万円、Gメンバー会費収入で約35万円予算を上回る成績となった。

一方、支出の部の一般会計は、60周年記念式典を兼ねたギャラクシー賞贈賞式が会場関係費の値上げに伴い予算を上回る支出となった。また、ホームページ、Gメンバーサイトを管轄する広報費はセキュリティ強化などの予定外支出により予算を上回った。結果、約150万円の赤字となったが、310万円赤字予算に対しては、赤字額を半分程度の大きさに留めることができた。

60周年特別会計は、志賀基金600万円の取り崩しを原資とし、

『60年史』出版編集費約530万円、60周年式典費約70万円と予算通りの実施となった。

福島俊彦監事より、監査の結果、決算は適正であることが報告され、決算議案は承認を受けた。

第4号議案(第20期、21期役員)定款第14条1項にしたがって、理事会準備会で作成された第20期、21期の理事候補者25名と監事候補者2名が提案され、賛成多数で承認された。ここで総会を一時中断し、新しく選任された理事による第1回理事会を開いて、互選によって理事長に音好宏氏を再任し、理事の役職を決めた。

\*新役員は別掲の通り。

第5号議案(2024年度事業計画)

各委員長、責任者より新年度の事業計画が提案され、承認された。

第6号議案(2024年度収支予算)

事務局長より、総額9080万円の予算案が上程され、拍手を以って承認された。

この後、総会議事録に議長と共に署名する議事録署名人2名を選

## 第20期、第21期役員

理事長	音好宏
専務理事	川喜田尚 (総務担当)
常務理事	藤田真文 出田幸彦 (選奨事業委員長) 桜井聖子 (選奨事業委員会ラジオ部門委員長)
理事	茅原良平 (出版編集委員長) 桧山珠美 (選奨事業委員会テレビ部門委員長) 家田利一 (選奨事業委員会CM部門委員長) 古川柳子 (選奨事業委員会報道活動部門委員長) 長井展光 (企画事業委員長) 滝野俊一 (広報委員長)
	市村元 入江たのし 岩根彰子 風間恵美子 加藤久仁 国枝智樹 五井千鶴子 小林毅 仲宇佐ゆり 丹羽美之 水島宏明 山田健太 渡邊悟 中島好登 (事務局長)
監事	上滝徹也 福島俊彦
【新任】理事	岩根彰子、加藤久仁、 丹羽美之、渡邊悟
【退任】理事	奥律哉、鈴木健司

任して午後5時に総会を閉会した(詳しい総会議事録は別途ご案内いたします)。

### ◆3月理事会報告

3月20日、総会に先立って3月理事会を開催した。

#### 1. 総会提出議案の件

総会に提案する議案について審議した。事業報告、決算報告、事業計画案、予算案について、各担当者から説明があり、これを承認した。

#### 2. 委員会活動報告

◆出版編集委員会 鈴木委員長

・報告は特になし。

◆選奨事業委員会

〈テレビ部門〉古川委員長

・2月28日にZoomにて定例会を開催した。月間賞には、私のバカせまい史「い

つからボケられなくなった…クイズ番組芸人の苦悩史」(フジテレビ)、NHKスペシャル「驚異の庭園〜美を追い求める庭師たちの四季〜」(NHK)、NHKスペシャル「戦場のジーンズ」(NHK)、NHK兵士が見た「地獄」(NHK)、NNドキュメント24「釜ヶ崎の肖像 明日への3000枚」(読売テレビ)の4本を選出した。

〈ラジオ部門〉桜井委員長

・3月26日に定例会を開催予定。

〈CM部門〉家田委員長

・3月21日に定例会を開催予定。

〈報道活動部門〉茅原委員長

・報告は特になし。

◆企画事業委員会 水島委員長

・報告は特になし。

◆広報委員会 滝野委員長

・3月11日にZoomで委員会を開催した。  
・2011年2月より運営を開始したX(旧ツイッター)アカウント「マイベストTV君」を、3月31日を以って終了することとした(1346フォロー、3/13現在)。

・Gメンバー…1036名(3/11現在)。  
・今後のスケジュール

4/8〜22、3月度投票&特別投票

「ネットドラマ」

4/23〜5/8、グランプリ投票

・マイベストTV賞1月度月間ノミネートは、金曜ナイトドラマ「おっさんずラブリターンズ」(テレビ朝日)、大河ドラマ「光る君へ」(NHK)、木曜ドラマ「めぐる未来」(読売テレビ)に決定した。

#### 3. その他

①入会・退会の件

〈正会員入会〉阿部日向子さん、一瀬悦子さん、岡野敏之さん、兼井孝之さん、佐藤義浩さん、篠原朋子さん、中橋敦さん、長谷川達哉さん、藤掛真里さん

〈正会員退会〉大沼悠哉さん

〈維持会員入会〉ジャパングループ株式会社

【出席】音好宏、川喜田尚、藤田真文、出田幸彦、桜井聖子、家田利一、市村元、

入江たのし、奥律哉、風間恵美子、国枝智樹、茅原良平、五井千鶴子、小林毅、鈴木健司、滝野俊一、中島好登、長井展光、仲宇佐ゆり、松山珠美、古川柳子、水島宏明

今後の理事会

4月23日(火)、5月22日(水)

## 会議記録

〔3月〕……………

11日 広報委員会  
20日 理事会・総会  
21日 (選奨)CM定例部会  
26日 (選奨)ラジオ定例部会  
29日 (選奨)テレビ月評会

### ◆2月理事会報告

2024年2月29日、2月理事会をZOOMミーティングにて開催した。

#### 1. 委員会活動報告

◇出版編集委員会 鈴木委員長

・2月14日にZOOMで委員会を開催した。  
・「GALAC」5月号特集は「1月1日

能登半島地震——そのときメディアは」(仮題)。発災当日の報道・情報対応と課題や、大津波警報発令に伴う「緊急アナ

ウンス対応」の反響や課題等について、それぞれNHK災害・気象センターの担当者、NHK瀧川剛史アナウンサーに寄稿を依頼。そのほか、被災地のローカル局の対応や、地元ラジオの動き、SNS情報、実際に能登半島地震を経験した中町綾子さん(日本大学芸術学部教授)と竹下あづささん(アーティスト、珠洲市在住)のコラムなどで構成予定。表紙は笠松将さん、ザ・パーソンはピアニスト／指揮者の反田恭平さん。

・同号では先月理事会でも予告通り、特別企画として、『サイレント・フォールアウト』の監督である伊東英朗氏(元南海放送)をめぐるさまざまな話題についてのインタビューを掲載する。

・6月号特集は「共同制作『新時代』(仮題)を予定。海外共同制作や、国内でも複数会社の共同によるコンテンツが制作されているなか、そのさまざまな形の組み合わせを分類・整理しつつ、いくつかのケーススタディとともに、共同制作の意義について考察する。

◇選奨事業委員会

〈テレビ部門〉古川委員長

・1月26日にZOOMで月評会を開催した。1月度月間賞には、Dearにつぼん

「差別の壁」を越えて〜京都・崇仁地区」(NHK)、ザ!世界仰天ニュース4時間SP「森友学園問題…赤木ファイル!命をかけた375日間」(日本テレビ)、情熱大陸「小島よしお」(毎日放送)、「秋山ロケの地図」(テレビ東京)の4本を選出した。

〈ラジオ部門〉桜井委員長

・2月21日にZOOMで定例会を開催した。「小説家のラジオ番組」をテーマに、「Street Fiction by SATOSHI OGAWA」(TOKYO FM)、東山彰良「イツ・オンリー・ロックンロール」(RKB毎日放送)、「今村翔吾×山崎怜奈の言って聞かせて」(朝日放送ラジオ)を聴取し議論を交わした。

〈CM部門〉家田委員長

・2月22日にハイブリッド形式で定例会を開催し、34作品のCMを視聴した。本田技研工業「MOVE篇」、ロッテ×Ado「シヨコラカタブラ篇」などの作品が注目を浴び、5タイプがピックアップされた日本マクドナルドの大規模なタレント起用についても議論を交わした。

〈報道活動部門〉茅原委員長

・1月30日にZOOMで情報交換会を開催した。特に能登半島地震に関するものが取り上げられ、NHKアナウンサーの

「命を守る呼びかけ」に基づいた緊急報道などに注目が集まった。

◇企画事業委員会 水島委員長

・報告は特になし。

◇広報委員会 滝野委員長

・2月1日にZoomで委員会を開催した。  
・2月2日にHP「オリジナルコンテンツ」に「座談会」2023年冬ドラマを語る!」を掲載。

・2月15日にGメンバーポイント制度の変更(1000ポイント利用で次年度会費無料↓半額500円に変更)を、メールおよびサイトで告知。

・Gメンバー1040名(2/26現在)。  
・マイベストTV賞12月度月間ノミネートは、土曜ドラマ「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」(NHK)、木曜劇場「いちばんすきな花」(フジテレビ)、「第74回NHK紅白歌合戦」(NHK)に決定。

## 2. その他

①正会員入会、退会

〈入会〉浅井賢二さん、飯野芳一さん、齋藤千明さん、柳志岐さん

〈退会〉中村美子さん

【出席】川喜田尚、藤田真文、出田幸彦、桜井聖子、鈴木健司、古川柳子、家田利一、茅原良平、水島宏明、滝野俊一、市村元

風間恵美子、国枝智樹、五井千鶴子、小林毅、長井展光、仲宇佐ゆり、松山珠美、中島好登

## 会議記録

〔2月〕

1日 ..... 広報委員会  
14日 ..... 出版編集委員会  
21日 ..... (選奨)ラジオ定例部会  
22日 ..... (選奨)CM定例部会  
28日 ..... (選奨)テレビ月評会  
29日 ..... 理事会



フェイスブック  
「放送批評懇談会」



X (旧: Twitter)  
「@houkon\_jp」



インスタグラム  
「houkon.jp」



YouTube  
「放送批評懇談会  
公式チャンネル」



## ～放懇SNS発信中～

フォロー、チャンネル登録、  
拡散、「いいね」  
お願いします!



# 追悼 松尾羊一さん

松尾羊一さんが2024年2月22日逝去されました。94歳でした。松尾羊一さんは70年代より放送批評懇談会に参加し、『放送批評』編集やギャラクシー賞の選考などで活躍され、94〜95年度には選奨事業委員長をつとめられました。在りし日のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

松尾羊一 まつお・よういち

本名・吉村育夫。1930年東京都（旧京橋区入船町）生まれ。53年早稲田大学第二文学部仏文科卒。文化放送で社会教養番組のディレクターとして、「スリ山に育つ子ら」「ある捜索願」（連盟賞優秀）、「この十年の記憶」（同最優秀）などを制作。「ニッポン・ホットライン」でギャラクシー賞選奨を受賞。放送評論家として『テレビ徒然草』（日本放送出版協会）、「ラジオ・グラフィティ」（住宅出版新社）、「テレビは何をしてきたか」ブラウン管のなかの戦後風俗史（中央経済社）、「テレビ遊歩道」（メトロポリタン出版）などの著作がある。毎日新聞にて「長屋のご隠居・てれび指南帳」を長期連載。「ブレン」新・調査情報」などにもテレビ評、ドラマ評を連載した。2015年第6回志賀信夫賞受賞。



## 傾く人、松尾羊一さんへ

僕がはじめて松尾さんを見たのは1982年の春、TBS調査部で学生バイトを始めたときのことだ。当時のTBS調査部は連日午後5時になると『調査情報』のスタッフを中心に酒盛りが始まった。時をおかずフリーライター、大学講師、謎の蘊蓄粹人など「外の人たち」が次々に現れ、細長い作業台で勝手にビールを注ぐ。その中にチョビ髭をたくわえ黒革のジャンパー（作務衣ではない）に身を包んだ松尾羊一さんの姿があった。

作業台の面々は、各々の経験・蘊蓄・データを武器に喧々諤々、番組論、タレント論、テレビ産業論とさまざまに花を咲かせる。その中で照れながらボソボソと自説を開陳する松尾さんは、すぐ目立った。組上の番組に対し、一視聴者であることにどこまでもこだわりつつ制作者側の視点を忘れないのである。

日付が変わる頃には河岸を変えようと一同赤坂の街に練り出す。そしてまた談論風発。月刊『調査情報』の「編集会議」は続いた。お店で皆の気分が高揚し、出入り禁止寸前まで発展することもあった。そんな時も松尾さんの話しぶりは比較的（あくまでも比較的だが）変わらなかった。

いつのまにか松尾さんは作務衣と雪駄履きというお馴染みのコスチュームで現れるようになった。しかし、この身づくろいは赤坂の夜の酔歩には向

かない。歩幅が取れないし、スースー風通しが良く冬は寒い（と思う）。ある時思い余って「寒くないですか」と聞いたら「寒い」と一言だけ返答があった。そしてよちよちとペンギンよろしく次の店に向かう。後ろ姿が傾いていた。

そのころすでに「松尾節」は出来上がっていたように思う。読めばすぐ「ああ松尾さんだ」とわかるあの文体。自在に奔放で、ちよつと大袈裟で、シャイで、ときには可笑しなたとえも入るけれど番組愛とテレビ愛に満ちた言い回し。文章が傾（歌舞）いている。作務衣と雪駄は酔狂でなく、文体の意匠とコーデした結果だった。

そのころTBS調査部にはHORRORSという野球チームがあった。ピッチャーは50歳以上なドローカルルールを設けて青山球場でナイターもした。松尾さんもユニフォームを着て参戦し、ヤジも飛ばした。五十路そこそこの松尾さんの「雄姿」があった。胸にHORRORSとあつてもまったく怖くないこのチームは、対戦相手から法螺ふき集団の「法螺ズ」と揶揄されたりもした。

憎越にも追悼文を書かせていただいて、僕が何より怖いのは、空の上から松尾さんに原稿チェックをされることだ。「キューさんや、追悼文でえのは、まあどれも大体こんなもんですよ。でもね、彼らの名前もどこかに書いてくれないかね。ほら、あっち行って会えないと困るし」。

というわけで、松尾さん、天国に着いたら、鬼籍に入ってお待ちかねのキンゾーさん、エノさん、チューさんから旧『調査情報』の面々と久闊を叙し、存分に談論風発してください。天国なら出禁を食らう心配はないでしょう。たぶん。

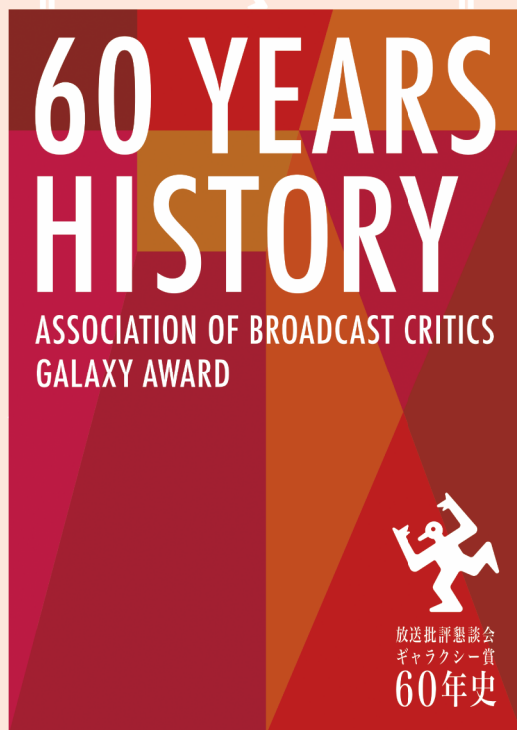
（上智大学教授 渡邊久哲）

# 「60年史」刊行のお知らせ

放送批評懇談会は、おかげさまで今年、創立60周年を迎えました。発足以来、優れたテレビ、ラジオ、CM作品を審査・贈賞してきたギャラクシー賞も2023年、60年の歴史を刻みました。この度、放送批評懇談会とギャラクシー賞ふたつの60年の記録として「60年史」が誕生しました。

放送批評懇談会の活動とそれにかかわった人たちの記録。ギャラクシー賞が選び抜いた珠玉の作品、日本の放送史に刻まれた優秀作品を一挙に網羅した決定版です。受賞作のタイトルや授賞理由が一覧できるうえに、その作品の制作者データも詳細にフォローされています。それぞれの作品に携わった人たちの熱意と気概が紙面から溢れます。放送関係者はもちろんのこと、テレビ、ラジオ、CMなどの研究者にとっても必携の内容となっています。

- 1963年度の第1回から2022年度の第60回まで、すべての受賞作品を記録。
- 放送日、放送局名、作品内容、授賞理由、スタッフ名などを詳報



好評発売中!

頒 価：5,000円(税込)  
正会員限定価格：3,000円(税込)  
サイズ：B5判  
ページ数：496ページ  
編集・発行：NPO放送批評懇談会

放送批評懇談会  
ギャラクシー賞  
60年史

お求めの方は放送批評懇談会までご連絡ください。

kondankai@houkon.jp / 03-5379-5521